

## 平成 30 年度 第 1 回白馬高等学校学校運営協議会 議事録（概要）

- 1 日 時 平成 30 年（2018 年）5 月 10 日（木）午前 10 時～12 時  
2 場 所 長野県白馬高等学校会議室  
3 参加者 9 名（欠席 1 名：岸委員）

この他、長野県教育委員事務局高校教育課 3 名  
白馬・小谷両村関係者 4 名  
白馬高等学校職員 3 名



### 4 次 第

- (1) 開会の言葉
- (2) 委嘱（任命）通知書手交
- (3) 長野県教育委員会あいさつ（塩野高校教育課長）
- (4) 白馬高等学校長あいさつ（臼井校長）
- (5) 委員自己紹介
- (6) 会長・副会長選任  
○ 会長：白戸 洋 委員 ○ 副会長：武田彰代 委員
- (7) 報告事項

- ① 学校の現状報告（臼井校長）
- ② 学校の現状報告についての意見等

#### <横川委員>

- 保護者の立場での発言になるが、7 時間目の補習を強制にしてもらえないか。

#### <臼井委員>

- 部活動との兼ね合い等を考慮して希望者としている。

#### <武田委員>

- 学習面の指導体制の強化・充実に期待するが、その中で寮生の多忙感が感じられる。寮で心身を充電し、更なる学びに向かえるよう、引き続きサポートやケアが大切と考える。
- 小中学校での英会話教室への生徒の参加について、地元高校生の活躍は、児童・生徒の憧れになり、白馬高校入学につながるものだと考える。身近な見本は励みになる。

#### <下川委員>

- 地元中学生の入学者数を増やす取組は、来年度に向けて必要だと考える。

#### <加藤委員>

- 小谷中学校の卒業生は、北信地区へ流出している。学力向上のためには、大人数の中で切磋琢磨することが必要だと考える家庭が多いと考える。
- 白馬高校の志願者数を増やすために、PTA総会で、フィールドワークの記事を紹介した。
- ニュージーランド（マールボロ地方）での研修旅行報告会を本校でも実施している。白馬高校の語学研修報告会と何かしら連携できる取組だと考える。

#### <松本委員>

- 小中学校の英会話教室について、村教委を窓口連携の方途を検討し協力したい。
- 高卒の採用があった場合には、小谷村役場への就職にチャレンジしてほしい。

#### <横澤委員>

- 地元の学びの礎は、白馬高校にある。小谷中学校として、白馬高校の志願者数増に向けたアプローチをしてほしい。

#### <武田委員>

- 美麻中学校から白馬高校までの交通の便が悪い。バス会社に、通学のための学生割引や通学のためのダイヤ編成を要請してはどうか。

### (8) 審議・確認事項

- ① 平成 30 年度白馬高等学校の学校経営計画について（臼井校長）
  - ・ 学校経営方針
  - ・ 組織編成

- ・教育課程
- ・支援事業等の予算

→ 平成 30 年度白馬高等学校学校経営計画を承認

(9) 意見交換（今年度の白馬高等学校の教育活動や学校運営協議会の活動などについて）

<白戸会長>

- 今年は、新生白馬高校の 3 年目になり大事な年になっている。新しい教育も始まるということで、特にテーマを設けず、どんなことでも構わないので意見をいただきたい。

<横澤委員>

- 寮で生活する上での規則が厳しいと聞いているがいかがか。

<下川委員>

- 今年度も規律の面では時に厳しい指導をしていると聞いている。様々な生徒がいるので、配慮していく必要がある。

<松本委員>

- 寮は、両村が責任をもって運営している。多様な生徒が生活しているので、寮生活に溶け込みにくい生徒に合わせた運営が必要だ。運営の仕方を改革する場合には、学校や保護者の皆さま協力が必要になる。基本的には、村の方針が寮の運営方針になる。

<白戸会長>

- あくまでも主役は生徒。両村のサポートを受け、一人ひとりに寄り添う学校教育が大切だ。自身、大学の寮に関与しているが、友達ができないからと退学した学生もいる。現在の若者の特徴だと感じている。規則を設けることは必要だと考えるが、一人ひとりに寄り添うことは、寮運営にも係るキーワードだと考える。
- 寮の運営については、全国から生徒が集まる尾瀬高校の取組が参考になる。
- 観光についていうと、観光学は完全には体系化されていない学問である。労働環境でいうと、福祉関係も観光業も変わらない。観光業も離職率が高い職種である。観光業を目指すためには、高い志や自己実現を含めた将来ビジョンがないと続かない。地域もともに考え、高校生を支え合う必要があると考えている。

<下川委員>

- 3 年生の寮生は 15 人いる。来年度はそれ以上の入寮者数が想定される。寮のキャパシティを考えると、やや余裕はあるものの限界に近い状況である。選考基準や募集定員について県としての考えを聞きたい。

<上野高校改革推進係長>

- 寮のキャパシティを前提とした募集は基本としては考えていない。先ほど尾瀬高校の例もあったが、寮とほかの考え方も併せつつ、これから検討が必要かと思っている。

<塩野高校教育課長>

- これからの高校全体を考えたときには、長野県も少子化が進んでくる中、全県的にこれからどういう学びが必要で、地域としてどういう高校を作っていくかについて教育委員会としても検討を始めているところ。高校改革の上で、地域として地域の子どもたちをどう育てていくかがこれからの大きなテーマであり大前提のひとつになる。ほかの課題も踏まえ、一つひとつ幅広く議論することも、この協議会の目的ではないかと考える。寮についての課題も、次回の協議会での話し合いのテーマの一つにさせていただけたらありがたいと思う。

<松本委員>

- 寮のキャパシティにより、最大の受け入れ人数は決まる。現実の問題としてキャパシティを超える入学者があった場合、受け入れ態勢はどうするかが早急に解決すべき課題だ。

<白戸会長>

- 2 回目以降の協議会でも、本日出された課題を取りあげ、具体的に確認し、意見交換をしていけると良いと考える。

(10) その他

- 第 2 回学校運営協議会は 7 月 19 日（木）10:00～12:00 を予定。

(11) 閉会の言葉